



ふなやま まさと  
**舟山 真人 教授**

～ 法医学分野 ～

講義題目

**法医所見を数値化する**

**【略 歴】**

1982年 3月 東北大学医学部卒業	1998年 5月 東北大学医学部教授
1986年 3月 東北大学大学院医学研究科博士課程修了	1999年 4月 東北大学大学院医学研究科教授
1986年 4月 東北大学医学部助手	2015年 4月 東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学 専攻長（併任 ～2017年 3月）
1988年 4月 東京都監察医務院常勤監察医	2023年 3月 退職
1992年 4月 札幌医科大学医学部講師	
1994年 2月 札幌医科大学医学部助教授	

**【研究業績等の紹介】**

舟山真人教授は本学入学時から法医学に関心があり、2年間の教養部を経て、医学部進学と同時に法医学教室の門を叩き、講義の合間に解剖の補助を行っておられました。大学院修了後助手を経て、東京都監察医務院で常勤監察医として検案・解剖の日々を過ごし、その後、出身の地である北海道に戻り、1998年に本学教授に着任されました。

舟山教授は学部学生当時から、遺体所見の多くは主観的なものが多く、経験の浅い者でも客観的な評価ができるものはないのかと考え続けておられました。大学院時代では解剖対象として白骨を担当することが多く、数値化の手始めとして歯学部の協力を得て、頭部 X 線画像を利用した前額・前頭形態から最小二乗法を用いた性別判定法の研究を手がけました。監察医時代には腰椎軟 X 線画像から画像解析を利用した年齢推定の研究を行いました。札幌医大では、研究主体を乳児突然死の解明にシフトされました。ここでの研究のポイントは乳児自体の解析ではなく、寝具環境に焦点を当てたことでありました。うつ伏せ寝が突然死のリスク因子であることは欧米で既知となっていました。その原因の一つが寝具である、との仮説をたて、再呼吸の起こりやすさを人形モデルとガスモニタを用いて、二酸化炭素拡散性を調べる研究に着手、更に本学において人工呼吸器下で、同拡散性を一つの数式で表すことで寝具間の比較を可能にしました。研究成果は実際の剖検症例に加

え、複数の裁判事例でも採用されております。この数値化のコンセプトは、分光光度計を用いた皮下出血色調の経時変化、死後の深部体温降下を用いた死後経過時間推定、骨の Ai（死後 CT 画像）においてフーリエ解析やベイズ統計による性別判定や年齢推定といった研究にも広がっていきました。退職間際には医用画像工学分野との共同研究で、胸部 Ai 画像を AI（人工知能）で解析、溺死や凍死の診断を確率値として数分で評価できるまでにたどり着きました。

以下は舟山教授からのメッセージです。「この 40 年の間に自らの関心分野で所見の数値化をそれなりに行うことができました。ある程度成果が得られれば次の興味へと移る、の繰り返しで、もう少し一つのことを深めればよかった、と反省もありますが、もともと器用貧乏なところがあるので仕方がないと諦めています。本学は総合大学としての強みがあり、研究に限らず実務に関しても疑問が生じた時に、解決のためのアドバイスをいただける先生方が必ずいらっしゃることで、様々な分野の方々からサポートを受けたこと、改めて御礼申し上げます。そして浅学非才の身である私を長年に亘り置いていただいた本学に対し感謝の念に堪えません。」